



ギャラリー&カフェ okudan



朝活スケッチ



フクラクラフト



工房このか



三々窯



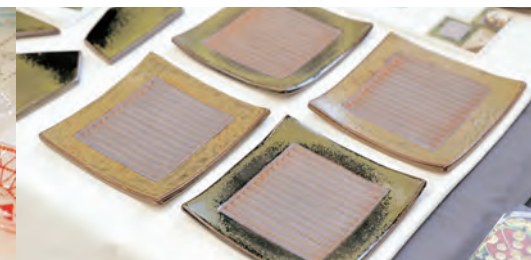
牛ノ戸焼



陶工房彩白



ukiroosh.



花輪窯

へつなぐさまざまな活動を行っています。

2年に一度、文化フォーラムや人間国宝対談として、さまざまな分野の第一人者をお呼びしています。文化フォーラムでは作家の森まゆみさんや哲学者の鞍田崇さん、医師・文筆家の徳永進さんらにお話しいただきました。人間国宝対談では有田焼の十四代今泉いづみ衛門さんや大蔵流狂言師の山本東次郎さんらにお越しいただきました。また、2年に一度ワークショップを行い、手仕事の面白さや奥深さに触れる機会をつくっており、今年も11月に開催予定です。

令和3年には「西郷工芸の郷 ギャラリー&カフェ okudan」を開設しました。個々の工房訪問が難しいことから、作品を見てもらうために設けたギャラリーです。土日祝のみの営業ですが、常設展示として全9工房の作品を展示しているほか、年に3〜4回程度、特集展示として1つの工房にスポットをあてて紹介しています。そして、最も力を入れているのが西郷工芸祭りです。山間で工芸やマルシェを楽しむ二日間。河原町・西郷の魅力を体感してください。

本市内の各地区公民館単位で設置されているまちづくり協議会が西郷に発足したのは平成21年の冬。「まち」ではないからと、いかなば西郷むらづくり協議会（以下「むら協」と命名されました。ほかの多くの中山間地と同じく、過疎化・高齢化の最前線でもあり、環境美化、地域活性化など問題は山積していました。河川美化活動や農地保全活動、健康増進のための活動など、さまざまなアイデアが登場し、その問題に対応するための部会が活動を始めます。

地区には雄大な三滝溪の千丈滝や、天然記念物である大シダレザクラ、大カツラなどがあります。曳田川沿いには日帰り温泉の湯谷荘もあります。地区の活性化を進めていくにあたり、どんなテーマを核とすればいいのか悩みました。そこで、地区の小学4年生以上の全住民にアンケートを行ったところ、地域の特色として「自然が豊か」「人がやさしい」に続き「工房が多い」という回答が第3位に上がってきたのです。

西郷地区では、江戸時代から続く牛ノ戸焼、終戦の年に窯を開いた因州・中井窯、昭和52年に開窯

したやなせ窯の3つの窯元が長く活動を続けてきました。そこに、平成19年に木工の工房このかが、平成21年にはガラス工芸のukiroosh.が、各々工房を構えました。むら協の文化部では、この工房の多さを地区の特色として位置付けていけたら、とイメージを膨らませていきました。そんな中、やなせ窯の前田昭博さんが平成25年に人間国宝に認定され、活動がさらに前進します。むら協の文化部は平成28年、工芸の郷構想を実現するため、スピノフ団体の一般社団法人西郷工芸の郷あまんじゃく（以下「あまんじゃく」）を設立。その年、今も続く西郷工芸祭りが初めて開催されました。

あまんじゃくは全国から移住作家を募り、平成29年には花輪窯、令和2年には三々窯が西郷地区に移住・開窯します。空き家の整備や改装、工房設置などは、市の空き家活用団体としてあまんじゃくが手掛けました。現在は、磁器製作の陶工房彩白、銀工芸のフクラクラフトも参加し、全9つの工房で活動しています。

西郷工芸の郷では「工芸の郷から文化の郷へ」を合言葉に、未来

## 今年も西郷工芸祭りを開催します！

**場所：西郷地区公民館（河原町牛戸 15-1）**  
**日時：10月24日（土）・25日（日） 10:00～16:00**  
 （24日10:00～12:00のみ要予約、屋外マルシェは予約不要）  
**問 あまんじゃく事務局 ☎ 090-7411-3150**

毎年10月に開催しており、今年で11回目を迎えます。会場の設営準備や当日の売り子、駐車場案内や後片付けなど、すべて地元のみなさんが協力して運営し、盛り上げています。

今年の工芸祭りでは、地区の9工房、型染や竹工芸などの地元作家のほか、全国のさまざまな工芸作品が西郷に集結。近くは島根県から木工作家が、遠くは北海道からガラス工芸家が参加予定です。屋外ではマルシェを開催。人気飲食店が出店するほか、地元農産品、おこわやモロコ、スイーツ、西郷小学校の児童が栽培したコメやイモなどが販売され、大にぎわいの2日間となります。

2日目の昼以降は少し余裕があるので、お目当ての工芸作家さんとお話しする機会が増えるかもしれません。秋の一日、ぜひ西郷にお越しください。地域をあげてお待ちしております。



西郷小学校では、地元の作家と一緒に作った器で「お茶碗給食」を実施しています



やなせ窯 前田 昭博 さん